

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 特発性肺線維症急性増悪に対する機械学習を活用した予後予測

[当院研究責任者] 部署名 呼吸器・アレルギー疾患内科 氏名 近藤 康博

[研究の背景] 間質性肺炎は、肺の間質を炎症や線維化病変の場とする疾患の総称で、国の難病に指定されています。特に、特発性肺線維症(IPF)は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が3~5年と予後不良の疾患です。中でもIPF急性増悪は約10~20%の患者さんに発症し、2人に1人が死亡する極めて予後の悪い合併症です。また近年ではIPF以外の間質性肺炎でも急性増悪を起こし、予後に大きな影響を与えることが言われています。このような急性増悪はIPF患者において重大なイベントであり、発症後の予後を予測することは適切なモニタリングや治療方針決定等に重要です。しかしながら、これまでのツールでは急性増悪の予後を事前に予測することは困難でした。そこで近年医療への応用がなされている人工知能と従来の検査を組み合わせることで、急性増悪の予後を事前に予測できる可能性があります。

[研究の目的] 機械学習を用いてAE-IPFの予後を予測します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2007年4月より、2018年3月までの期間でIPF急性増悪の診断を受けられた方。

●利用する検体、カルテ情報

診療情報(カルテ)から、年齢、性別、喫煙歴、既往歴、併存疾患、血液検査結果、画像検査結果、生理検査結果、運動耐用量検査結果、組織所見等の情報を収集します。

●研究期間

実施承認日~2029年12月31日

[研究組織]

この研究は、多施設との共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。

- 研究代表者 名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター・講師・古川大記
- 研究分担者 名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・大学院生・伊東友憲
- 共同研究機関 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科・副院長・近藤康博

部長・武井玲生仁

浜松医科大学 内科学第二講座・教授・須田隆文

助教・穂積宏尚

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者及び提供先である研究代表者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学 伊東友憲

住所：〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

直通電話番号：052-744-2167

FAX 番号：052-744-2176

e-mail：t.ito@med.nagoya-u.ac.jp

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 武井玲生仁

住所：〒489-8642 愛知県瀬戸市西追分町 160

直通電話番号：0561-82-5101